

議会だよ入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No.164
2013年 1月27日



目次

「おあしす新川」増床・(株)ウーケ増設に支援(補正予算)	2P
「おあしす新川」増床計画で議論白熱(討論)	3P
学童保育の未実施を厳しく指摘(決算特別委員会レポート)	4~5P
サンウェル周辺に駐車場整備(常任委員会レポート)	6~7P
町政を問う 代表・一般質問(8議員)	8~15P
墓ノ木松明祭り(入善の祭り)	16P

12月
定例会

「おあしす新川」増床 (株)ウーケ増設 に支援

12月議会の
あらまし

12月議会は、3日から19日までの17日間開会し、初日に平成23年度決算を認定した。また、平成24年度補正予算案7件、条例の一部改正など議案4件、専決事項の承認、議員提出議案3件を審議し、すべて可決した。
また、陳情1件を審査したほか、12日、13日に代表・一般質問が行われ、8人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

補正予算の概要

一般会計の補正予算は、企業の増設に伴う貸付金や、グループホーム開設に係る補助金、特別養護老人ホーム「おあしす新川」の増築事業に対する補助金などである。

一般会計では、6億4848万円の追加になったが、主な財源は繰越金、町債、交付税などである。結果、予算総額は1億4309万円となった。

国民健康保険特別会計では、高度医療による療養給付費の増加などに伴い、1億740万円を追加し、総額25億9600万円、後期高齢者医療特別会計では保険料率の見直しなどに伴う保険料負担金の増額など3522万円を追加し、総額6億3042万円とした。

主な事業

企業立地推進事業

4億8000万円

株式会社ウーケの増設資金の一部に対し、地域総合整備資金貸付制度（ふるさと融資）を活用した無利子貸付を行う。

「おあしす新川」増築事業

1億125万円

特別養護老人ホーム「おあしす新川」の30床増床に伴う増築に補助をする。

在宅介護支援事業

540万円

春日地内で整備が進んでいる認知症対応型グループホームの開設準備に対し補助をする。

子育て支援金

160万円

支援対象者の第3子、第4子以降の出生者が増えたことから、増額する。

すこやか食育事業

18万円

J Aみな穂からの食育振興事業指定寄付金（ジャンボ西瓜の売上金の一部）により、小学校の食育教材を購入する。

規約の制定

平成25年3月に発足の、黒部市・入善町・朝日町で構成する新川地域消防組合設置のための規約を定める。



4人目誕生おめでとう

討 論

「おあしす新川」増床計画

一般会計補正予算には、特別養護老人ホーム「おあしす新川」の増床に伴う増築事業の補助金が盛り込まれた。

増築予定地が、サンウエル駐車場の一部であることから、賛否をめぐり議論が白熱した。

反対討論

五十里 隆章 議員

今回の増床計画の最大の問題点は、平成25年度に計画していた北側用地を検討することもなく、サンウエル駐車場としたことにある。

役場内での検討や調整作業が形骸化しており、意志決定プロセスに大きな瑕疵がある。

これまでの総合体育館、サンウエル、運動公園など「健康と福祉の郷」として一体整備してきた町づくりの基本理念を根底から覆すものである。

駐車場不足には代替地を手当てするとしているが、再整備など二重投資となり、無駄使いである。

この一帯のバランス、役割が大きく損なわれ、入善町の将来に禍根を残すことになる。

賛成討論

元島 正隆 議員

当初の「おあしす新川」の増床計画では、施設北側隣接地での整備であったと聞く。しかし、県からの1年前倒しの打診を受け、北側農地の転用手続きが間に合わないなど、時間的制約があり、サンウエル駐車場で建設することになったのは、いたし方のないことである。

県に要望して許可を得た立場であり、また新たな駐車場を確保することから、容認せざるを得ない。

松田 俊弘 議員

町当局に、サンウエル駐車場の利用状況の認識の甘さはあったが、近くに新たな駐車場を設けるとのことであり、より安全になる。

今回、この計画を見送れば、県の支援を断ることとなり、「おあしす新川」の増築が大幅に遅れることが懸念される。

町の特別養護老人ホームの入所待機者は200人近い。一日も早い施設の建設が求められており、今回の補正は認めるべきである。

賛成10 反対3で可決

「討論」とは、表決前に議題となつている案件に対して、賛成か反対かの自己の意見を表明すること。今回から、「討論」を掲載することになりました。

請 願

地方自治体の重度障害者（児）医療費助成制度及び自立支援医療費の改善を求める国への意見書採択に関する陳情書

陳情者（社）富山県身体障害者福祉協会 外5団体

賛成全員で採択とした

議員提出議案

障害者に対する公的医療費助成制度の充実を求める意見書

障害者の自立支援医療において市町村民税非課税世帯利用者負担を無料とすることなど、障害者に対する公的医療費助成制度を充実させるよう、国に意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

永年在職議員に感謝状

このたび、長年にわたる地方自治発展の功勞に対し、35年以上在職する九里議員には総務大臣から、15年以上在職する谷口議員には町から感謝状が贈呈された。

レポート

23年度決算

学童保育の未実施を厳しく指摘

決算特別委員会は、9月20日から一般会計及び6特別会計の審査をおこなった。一般会計では、要望の多い学童保育の開設が、予算化されていたにもかかわらず未執行であったことから、議論が白熱した。10月25日に学童保育未実施校区（上青小・黒東小・ひばり野小）の設置予定場所、児童センターなどでの学童保育実施状況を視察した。11月1日に総括質疑、討論、採決を行い決算を認定すべきものと決した。

一般会計とは賛否同数

一般会計の決算認定については、学童保育の問題などから賛否同数となり、委員長の裁決により認定すべきと決した。

また、国民健康保険などの特別会計5議案については賛成全員で、下水道特別会計については、賛成多数で認定すべきと決した。

主な質疑応答

学童保育未実施校区における開設の見直しは

Q 平成23年度では、学童保育の新規開設が

A これまで指導員の確保については、地域に依存してきたが、確保が困難になっている。今後は、町の臨時職員として確保していきたい。また、運営については、町が責任をもって行うが、地域では運営委員会を組織し協力をお願いしたい。24年度中に少なくとも一箇所で開催の目途が立つよう努力したい。

適正な職員数の確保と臨時職員の待遇改善を

Q 行革で町職員数を削減してきたが、職員数の推移はどうなっているか。

A 正規職員は、平成16年度では301人だったが23年度で249人になった。第3次職員定員管理計画では、26年度で240人が目標だが、地域主権改革で事務事業が国・県から移譲されていることや、さらに広域消防への派遣などから、260人

を確保したい。

臨時職員は、150人程度で推移しているが、臨時保育士の確保が重要な課題だ。

Q 乳幼児の保育ニーズが増えている中、保育士の確保は急務である。臨時保育士の待遇を改善し、確保すべきではないか。

A 23年度で臨時保育士の賃金を見直し、一時金も支給するようにした。他市町と比較して遜色のないようにしたい。

深層水あわび事業の委託料は補助金ではないのか

Q 国の雇用創出基金事業を活用し、漁業組合が行っている深層水あわび養殖事業に関連して、3つの事業合わせて1350万円あまりが委託料として支出されている。委託料となっているが、実態は、補助金的支出ではないか。



学童保育設置予定のランチルームを視察（黒東小学校）

決算特別委員会



増築工事中の入善浄化センター

A 深層水あわびの販売促進として、取引先を70社程度に、販売個数も2万個から4万5000個に拡大した。

また、「深層水浜焼き屋」やイベントへの出店などのPRを推進している。

さらに、深層水あわびの真空パックなどの商品化や町内での利用促進を図った。

アワビ養殖は育てる漁業の一つであり、町の特産振興としても必要な支援は継続したい。

下水道の財源不足を安易に住民負担に転嫁するな

Q 下水道財政が、将来的に財源不足となる見通しが明らかになった。安易に町民に負担を転

嫁することなく、あらゆる角度から改善策を検討すべきだ。

A 接続率の向上による使用料収入の確保、施設の長寿命化などで、持続可能で健全な事業経営となるよう取組んでいきたい。

**厳しい財政運営の中
健全な財政を堅持**

23年度の決算は、一般会計では、歳入決算額が104億8921万円（前年度比△6・8%）で、歳出決算額が98億5829万円（同△8・2%）となり、6億3092万円が繰越となった。

また、国民健康保険、簡易水道、育英奨学資金、下水道、農業集落排水、後期高齢者医療の6特別会計はいずれも黒字となった。

財政の健全化を判断する比率では、実質公債費比率が前年度より0・9ポイント下回り13・8%となるなど、すべての指標が、健全財政を示して



楽しい給食

いる。

極的に取組むこと。

その他の指摘

●現在の全小・中学校の給食は、同じ日に同じメニューでつくられている。地元農家が食材を提供しやすいように、学校ごとにメニューのローテーションを組むなど工夫してはどうか。

●除雪協力業者の負担軽減や地域ぐるみの除雪を推進し、必要な除雪体制の確保に努めること。

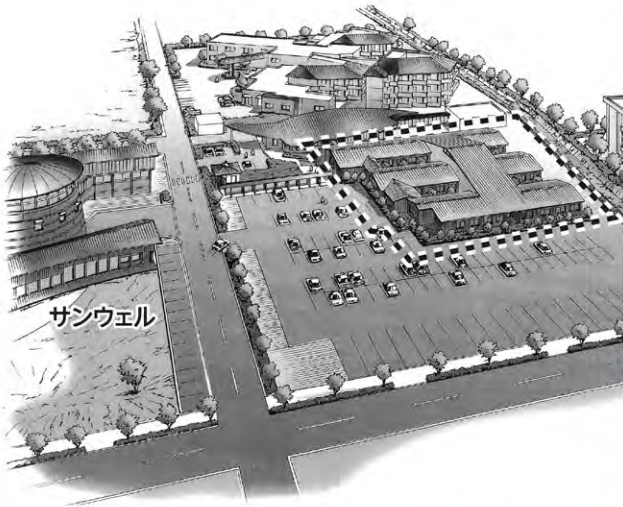
●米の品質を確保するため、水田の地力増強に積

レポート

総務 常任委員会

町当局は、サンウエルの駐車場の一部を利用した特別養護老人ホーム「おあしす新川」の増床計画を提案した。

会期中に3日間、委員会を開催した。特に12月14日には参考人として「おあしす新川」からの出席を求め説明を受けたことから、会期中にさらに審議を重ねる必要がある。



「おあしす新川」増築完成予想図

り、いったん継続審査とした。

増床事業の補正予算審議を巡り意見が続出した。最終日の委員会で可決した。

「健康と福祉の郷」での 駐車場の位置づけ重要

Q 「健康と福祉の郷」
としてのまちづくり
の中で、要となる駐車場の
位置づけは重要だ。

「おあしす新川」が24年3月、施設北側の地権者と用地交渉したことを健

康福祉課長は承知している。

町当局が同年5月駐車場の建設を決定した際、「おあしす新川」北側での計画をなぜ進めなかったのか。

町のデイサービスセンターを挟んでの整備は納得出来ない。
将来に禍根を残す問題だ。

A 当初、「おあしす新川」が25年度で、30床の増設を予定し、県と協議してきた。

しかし、25年度の県の補助枠はいっぱいのため、24年度での前倒しを打診された。

一方では財源の未確定の中で、用地交渉はできないとの思い込みもあった。

Q 町長は、駐車場50台分を潰すことに何の
わだかまりも、負の思い
も無いのか。

A その様なことは無い。
駐車場の不足については、近隣で後から手当てすることもできる。

施設の増床をすぐできる所はどこかとなった場合、駐車場はすぐ取組める。

1年かけ駐車場が必要ならば用意できると考えた。

Q 駐車場での整備となると、おあしす新川とは賃貸契約か。

A 当分の間、賃貸契約
としたい。財政的な余力が出れば、買い上げも視野に入りたい。

12月19日審議再開 賛成多数で可決

Q 施設整備と駐車場に
ついて新たな提案は
あるか。

A サンウエル東側駐車場50台分の敷地で取組みたい。

共同スペースの使い易さなど、「おあしす新川」の意見を尊重したい。

一方、サンウエル利用者の利便性を高めるため、新たに北側で70台分の駐車場整備を25年度で取組みたい。

こんな意見も

●議会への説明、議論の場が無かったことは大きな問題。今後二度と無いように。

増床に伴う介護職員の確保は可能か心配だ。町の協力体制が必要だ。

保育士の確保と 処遇改善は

Q 〇歳児保育の高まりから、保育士の確保は大きな課題。臨時保育士などの処遇面の改善は図られたか。

A 保育士の処遇改善に
ついて、今年度当初、
臨時職員4名を正職員に
登用した。

また、臨時保育士の賃金について、他市町村から見ると見劣りしていたことから、経験年数に応じて単価の設定を見直した。

通勤手当を含め、他市町村並み以上の改善を図らないと人材確保は難しい。

常任委員会

産業教育 常任委員会

ふるさと融資制度とは

Q 企業立地推進事業費として、4億8000万円が予算化されている。

A どのような事業か。国の「ふるさと融資」制度だ。

町が企業の設備取得にかかる費用に対して、貸付けをするものだ。

企業の総事業費が、2500万円以上で、5名以上の新規雇用確保が条件となる。

貸付限度額は6億円、総事業費の20%までで、今回は、(株)ウーケの工場増設に伴うものだ。

償還については、5年以内の据置期間があり、15年以内の償還となる。

この間の利息は、町が25%、国が75%を負担する。

バーデン明日の改修・修繕は、どこまで町が負担するのか

Q バーデン明日の修繕目的として、280万円の追加予算が計上されているが、年度当初予算の1000万円では足りないのか。

A バーデン明日の建物には老朽化が目立つ。これまで、風呂場のカラン交換などに約570万円支出した。また、今までのような保養所的機能から温泉旅館

町はどの程度までの改修や修繕を計画しているのか。

館的に変更するために、大広間の和風改修費用として約320万円を支払った。今後は、トイレのウォッシュレット化を推進していく。

全ての改修費用を町が負担していく訳にはいかないが、旅行会社の指摘なども参考にするなどして、高級旅館とは言わないまでも、快適性を提供するための最低限の設備を整えたい。



老朽化した中央プール

こんな意見も

●町は地元企業に対し、各種の支援を行っている。社員採用の際には、町民をより多く採用していただきたいものだ。

●町が公共下水道を計画した平成14年当時と現在では、人口や世帯数において、随分と状況が変化している。

クや見直しは行われなかった。将来的な維持管理を考えていく上で、あらゆる角度からの再チェックが必要だ。

●町の指定保存木は、所有者個人の管理となっている。維持管理には町の援助が必要だ。また、指定の見直しも検討すべきだ。

●平成5年までは、小学校の水泳大会が行われていたが、学校5日制になっただけでなくなった。町の海岸は遊泳禁止なので、大きなプールは将来的にも必要だ。



増築中の(株)ウーケ

この間、計画のチェッ



松澤 孝浩 議員（アクセス入善）

平成25年度予算編成の重要施策は

町長 町合併60周年を記念し 多種多様な事業に取り組む

問 平成23年度決算認定の指摘事項や今年度の取り組みについてどのような評価し、新年度の予算編成に反映させるか。

米澤町長 総選挙により、国では予算編成作業がスタートしていることから、地方財政の指針が示されていない。

町では、先行き不透明な状況のもと、平成25年度の予算編成作業に着手した。
具体的な施策として、野中地区交流センター、統合保育所や入善南公園の整備、黒東小学校のプールの設計と今年度取得する雇用促進住宅の改修などを計画しているほか、小水力発電の実証実験を継続する。
また、入善町合併60周年への対応では、テーマを「きずな」でつなごう

明日への幸せ」として、来年10月の記念式典を中心に、多種多様な事業を展開し、町民とともに、合併60周年をお祝いしたい。

林副町長 決算特別委員会からの平成23年度決算における指摘事項については、事務を監督すべき立場にある私が、事務事業の執行に対する配慮に欠け、事態を看過したことに、その原因があるものと考えられる。
とりわけ、今年度予算でも計上している学童保育関連事業の推進には、保護者ニーズを的確に捉え、新規設置事業などを着実に推進していく。

また、平成24年度事業においても、その実現性や効果を再度検証し、改善を要する事業については、新年度予算において改善を図っていく。

「健康と福祉の郷」の周辺整備は
周辺土地の取得など計画的に整備を進める

問 高齢社会の進展や時代のニーズに対応した「健康と福祉の郷」の周辺整備が今後の課題になる。

町長の基本姿勢は、町長 町の中心に位置する運動公園周辺を「健康と福祉の郷」と位置づけ、町民の憩いと交流の場として一体的に整備を進め

てきた。
今回、特養施設「おあしす新川」の増床は、平成25年度に予定されていた整備を今年度以前倒した。

今後も待機者の増加が見込まれるため、増床が必要となるほか、時代のニーズに対応した機能を確保するとともに、さらなる充実を図る必要がある。
周辺の土地の取得なども含めて、計画的に整備すべきと認識している。
また運動公園については、一部老朽化などが見られるため、長寿命計画を策定し、整備を進めていく。



今後の整備が問われる「健康と福祉の郷」

消費税増税が、地域経済に及ぼす影響を
どう考えるか

副町長 景気悪化の深刻化を懸念



待たれる学童保育の実施（ひばり野小学校）

問 電機関係や自動車関係産業の町内関連企業の業績見通しや、小規模事業所などの実態はどうか。消費税増税が小規模事

業者、暮らしと地域経済に及ぼす影響をどう考えるか。

副町長 町内関連企業も小規模事業所も同様に厳しい状況である。消費税増税で景気悪化の深刻化を懸念している。

全国町村会などを通じ、くらしや地域経済に影響のないよう、国に要望していきたい。

**全校下で学童保育を
未実施校下も早期に実
施**

問 臨時職員として雇用する学童保育指導員の処遇をどう検討しているか。



未実施3校下の取組み状況はどうか。

堂徳教育委員会事務局長 指導員の処遇内容は、関係部署と調整を図っている。未実施校下では、区長会などに協力を依頼した。

**ランチルームや図書室
に冷房設備を
慎重に検討したい**

問 国は、小・中学校の冷房装置については、耐震化を終え要望したところを優先して進めている。

県内では、近年、要望したところは全部補助対象で実施された。まずラ

ンチルームや図書室に設置する考えはないか。

教育委員会事務局長 ランチルームや図書室は慎重に検討したい。

**カメムシ、サル被害対策を。TPPの影響は
町農業が犠牲にならない
ように国に働きかける**

問 TPPが町農業に与える影響をどう考えているか。

また、行政区境界のカメムシ被害、墓ノ木や西中地区のサル被害対策を考えているか。

竹島農水商工課長 TPPで町農業が犠牲にならないよう、国に働きかけたい。

行政区境界での問題は、関係機関と連携し農家の声を反映させたい。

サル対策の大規模電気柵など、地域の合意が整えば積極的に支援する。

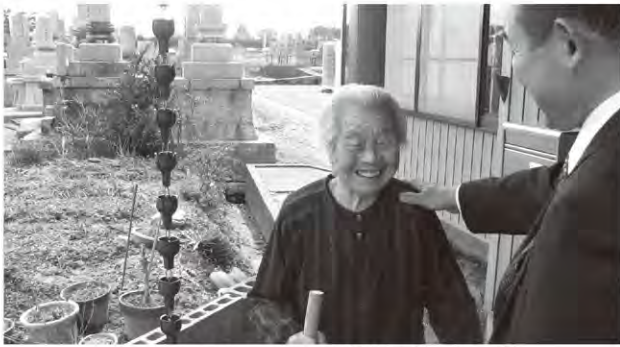
**試験焼却で風評被害が
であれば国が責任を
国に働きかけたい**

問 災害廃棄物焼却で風評被害が出れば、「国が責任を持つ」ことを確認させ、焼却前後の焼却灰の測定結果を公表せよ。

放射性セシウム濃度が基準値以上の場合、本格焼却しないか。

町長 風評被害について、しっかりと国に働きかけたい。測定結果の正確な提供に努める。
放射性濃度が基準値を超えることは想定していない。

九里 郁子 議員（日本共産党）



「まめなけ」町が取り組むケアネット活動

人口減少化時代における「選択と集中」 その考え方を問う

町長

資本の投資が偏在しないよう 緊急性や地域のバランスも考慮



野島 浩 議員

問 入善町も確実に人口減少化時代に入った。

町当局は、常々「選択と集中」というが、どのような優先順位で、社会

インフラの新たな整備や老朽化への対応、少子高齢化による地域社会を維持構築しようとしているのか。

町長 総合計画に基づき、優先される施策を選択し計画的に進めたい。

重点的に実施すべき事業は集中的に、広く供与すべき事業は包括的に取り組みたい。

安心・安全の確保や地域活力の低下も、重点課題として計画的に進めたい。

また、限られた財源を効果的に配分するため、スクラップ・アンド・ビルドにも心がけている。

孤立死を防ぐために更なる要援護者の把握を

対象者の理解を得てより多くの方の登録を

問 災害時も含めて、孤立や孤独死を防ぐためにも、要援護者台帳への登録漏れがないよう再点検が必要だ。

小堀健康福祉課長 毎年、民生児童委員の協力を得て、台帳の更新を行っており、今年度の登録者数は、2555人。

支援を受けることへの遠慮などで、登録に同意されない方へも理解を得るよう努力している。

問 ケアネット活動の実態と課題は。

健康福祉課長 現在73チームで、76人を対象に活動している。

本人の遠慮などにより、支援を拒否されるなど、スムーズに受け入れてもらえない事例もある。

ケアネット活動に対する理解を周知していく。

学童保育未実施地区での取組みについて

新年度開設に向けて説明会を予定

問 学童保育実施に向けての運営方法や指導員の確保をどうする。

教育委員会事務局長 新年度開設に向けて説明会を予定しており、地域の実情に合わせた保育内容や運営方法に支援してい

きたい。

指導員の採用については、専門的な資格を求めず、地域事情に明るいことを考慮しつつも、幅広く呼びかけたい。

のらんマイ・カーでの定期券発行を考えると

利用実態を踏まえて料金体系を検討する

問 ルート変更後の利用状況はどうか。

定期券発行など料金体系の見直しを考えては。

梅津企画財政課長 昨年同月と比較して、約3割の増加となっている。料金体系の見直しや、定期券発行については、実施している自治体の先行事例を参考に検討する。

町営バスのルート変更から1カ月 現状と課題をどう捉えるか

企画財政課長 昨年と同月と比較し3割の増加



ルート変更で利用者が増えた「のらんマイ・カー」

問 「のらんマイ・カー」は交通弱者を支援する目的で運行されているが、その成果はどうか。

企画財政課長 1カ月間の利用状況は、一日平均80人の利用があり、昨年と比較し、3割の増加になっている。

しかし、一部では利用者が少ない路線もある。さらに、高齢者や児童、生徒など交通手段が足りない方々に細やかに対応する検討が必要だ。福祉タクシーの活用やデマンド方式など、地域ニーズに対応できる運行についても研究の必要がある。

住民の利便性向上のために、意見や要望に耳を傾けていく必要があると考えている。



山下 勇 議員

高波、津波などに対する対応は
電柱に海抜表示付き誘導看板を設置

問 海岸地域などは避難場所が遠く、高齢者、障害者の避難は難しいと思うが、その対策は。

草島総務課長 今年度に入り、主要な避難路の電柱に海抜表示付き誘導看板を設置した。

高波、津波の発生時には、これらを有効に活用すると共に、JRよりも山側の指定避難所に避難していただきたい。

建物の2階以上への避難が有効だが、高齢者や弱者など要援護者がいる

場合は、車を使用しての避難も必要になる。

日頃から家族や近所で避難方法を話し合っていたいただきたい。

問 11月、芦崎地区で夜間、長時間にわたる停電があった。

今後このような事態にどう対応するのか。

総務課長 自然災害に限らず、ライフラインに被害が発生した場合は、適切に対応ができるようにすべきだ。

電力会社や民生委員、医療機関との連携について再確認し、早急に体制整備に取り組む。

(株)ウーケからの深層水温排水の活用は
新たな活用方法を検討したい

問 (株)ウーケからの温排水は、アワビ養殖に活用され、一定の成果を挙げている。

更なる活用のために、発電の研究に取組む価値が十分にあると思うがどうか。

町長 新たな活用方法の検討は、有意義である。発電については、先行事例を参考に検討したい。



3セク化が迫る並行在来線

JR 譲渡資産の「事実上の無償化」なら
並行在来線の運賃値上げは必要ない
町長 県は収支予測を精査し引上げ幅を検討
利用者負担が大幅に増えないよう求める



松田 俊弘 議員

問 JRが、鉄道資産を約110億円で譲渡することで知事と合意したと報じられた。また知事は、JRによる人件費の一部負担などや国の支援が110億円になり、譲渡

資産は「事実上の無償化」と述べたとのこと。

そうであるならば、25%の運賃値上げは必要ない。スタート時の運賃は、現行のままとするよう求めるべきだ。

町長 将来の需要予測は樂觀視できず、県は収支予測を精査し、引上げ幅を検討すること。利用者負担が大幅に増えないよう求めていく。

地域の活性化にジオパークの検討を

新川地域で機運が高まるよう情報交換し検討

問 大学教授を中心に、県東部の市町の学芸員で

ジオパークの研究会を立ち上げ、検討を進めるとのこと。町もこれに加わる考えはないか。

また、杉沢の木道が滑りやすく危険だ。改修のために検討委員会を早期に立ち上げるべきだ。

教育委員会事務局長 ジオパークについては、町にも呼びかけがあった。新川地域が一体となって、構想を検討する機運が高まるよう、情報交換を図りながら検討していきたい。

杉沢については、木道も含めた整備計画の策定に取り組む。

冬場の農業用水の確保に県と共に研究を

県と研究し関係機関に働きかける

問 火災対策に冬場の農業用水の確保が課題だ。県は、地域用水として新たな水量確保に組み出した。

これを機に県と研究し、関係機関に働きかけるべきだ。

横山から田中に広がった防災林のマツクイムシ被害対策を急ぐべきだ。

大角建設下水道課長 地域用水の水利権取得には、課題も多くなり難しい問題だ。県と連絡を密にしながら事例研究を積み重ねていきたい。

マツクイムシ被害対策では、伐採などの作業を12月下旬完了に向け実施している。

老朽化した空き家の跡地で防災林、防火水槽の整備を

県のワーキンググループで具体化を図る

問 老朽化した空き家の跡地活用に、町が家屋の取り壊しで補助（限度額80%）をすれば、その半分を国が支援する。

国の空き家事業を活用し、住宅密集地で防火水槽を設置し、横山や八幡などの海岸部では防災林整備を進めてはどうか。

建設下水道課長 町内の空き家は1470戸ほど。防災林用地、防火水槽用地も有効な方法だ。

県が設置したワーキンググループで、具体化を図っていく。

「おあしす新川」増床計画と建設予定地は

町長 サンウェル駐車場で整備し
26年度から供用開始する



「おあしす新川」の増床が予定される駐車場スペース

問 新川地域介護保険組合第5期事業計画に、本町で50床の特養施設増床計画が盛り込まれた。「舟

「おあしす新川」と「舟

見寿楽苑」の増床計画は。

町長 「おあしす新川」における増床は30床で、サンウェル駐車場で整備の予定である。26年度当初からの供用開始を計画している。

「舟見寿楽苑」も26年度に、20床を旧舟見小学校跡地で増床する予定である。

事業主体で、新たな駐車場費用を負担すべき

今後財源に余裕が出れば買い取り協議も

問 「おあしす新川」は、ダイサービスセンターをまたいで、しかも利用の多い町の駐車場を犠牲に

して増床を計画している。

そうであるならば「おあしす新川」側で新たな駐車場を整備するか、購入してもらわなければならない。町が税金を投入すべきでない。

健康福祉課長 「おあしす新川」では、多額の事業費を要することから、購入は困難。当分の間は町が貸し付ける。

将来、財源に余裕が出れば、買い取り協議も視野に入りたい。

またサンウェル周辺で、新たな駐車場確保を検討する。

飯野地区でも、福祉施設を設置すべきである
今後の需要動向などにより検討する

問 飯野地区のまちづくり懇談会で、福祉施設誘致の要望があった。検討すべきである。

町長 第5期介護保険計画の中に飯野地区での整備は盛り込まれていない。今後の需要動向などにより計画の見直しが進めば、介護施設の配置について再検討する。

通学路の状況に応じた安全対策が必要

小学校周辺で計画的な標識の設置を検討する

問 地域やドライバーが

「通学路」と認識できるよう周知し、子どもたちへの安全対策に努めるべきだ。

建設下水道課長 学校周辺の重要度の高い路線で、通学路を示す「警戒標識」の設置などを検討する。

路肩にカラー舗装を施し、歩行スペースを強調する方法や、ドライバーへ速度抑制を促す路面デザインや注意喚起の看板設置などが有効である。

通学路の安全対策について、早期実現が可能で効果的な対策を関係機関と協議したい。



笹島 春人 議員



高い評価の入善産米（検査風景）

TPP（環太平洋連携協定）の交渉参加反対の表明は 町長 聖域なき関税撤廃に反対



鬼原 征彦 議員

問 町長は、農業が町の基幹産業であるとの立場から、TPPへの交渉参加には、断固反対すべきだ。

町長 聖域なき関税撤廃

を基本とするTPP参加となれば、町農業に極めて深刻な影響を及ぼす。農業の崩壊は、経済活動のみならず、雇用やコミュニティ、多面的な機能の崩壊、食糧、食の安心や自給率の低下を招くものであり、地方の崩壊にもつながると言っても過言ではない。

今後関係機関や団体と連携しながら、TPP参加には反対を訴える。

特産物の振興策を示せ
新規就農支援事業で後継者を育成したい

問 チューリップ、入善

ジャンボ西瓜の生産は、担い手が減少傾向にある。生産者の育成など振興策を示せ。

町長 チューリップや入善ジャンボ西瓜は、ともに生産農家が20戸を割っており、作付面積も10年前の半分以下にまで落ち込んでいる。

新規就農支援事業を立ち上げ、後継者育成に取り組む。

「入善フラワーロード」や「ジャンボ西瓜ふるまいる市」などのイベントを通じて消費者との交流や、PRの推進を図りブランド力強化に努める。

入善産米の品質向上対策とブランド化は

産地指定で高い評価

問 富山県産コシヒカリの格付けは、ここ10数年間第2位のAランクと低迷している。品質向上対策、ブランド化についての取組みは。

農水商工課長 入善産米は特に高い評価を得ており、関東、関西、中京の大手卸業者から、8割近くが産地指定によって取引されている。

また、(株)ウーケのバックご飯や輸出用米など新たな商品として入善産米のニーズが高まっており、ブランドの形成に大きく役立っている。

1等米比率の向上対策など、関係機関と連携し

ながら取組みたい。

交流人口拡大をどう進める

来訪者の受け入れ体制構築したい

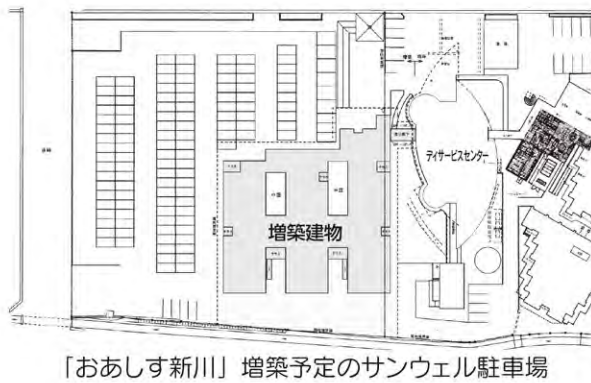
問 人口減少が続く中、交流人口の拡大は町活性化のキーワードである。町はどのような推進策を進めているか。

企画財政課長 新幹線の開業まで2年余り、町が持つ観光、文化資源や特産物、人など地域資源を総動員して、交流人口の拡大に取組む必要がある。

「入善観光協会(仮称)」設置について取り組んでおり、観光案内所の設置や、観光ガイドの養成など、来訪者の受け入れ体制を構築したい。

町駐車場での「おあしす新川」増床は米澤町政の負の遺産とならないか

町長 待機者のためにもこの方法しかなかった



「おあしす新川」増築予定のサンウェル駐車場

問 「おあしす新川」が、当初計画の北側用地を断念した理由はなにか。

健康福祉課長 県の担当者から「25年度は施設の要望が多い。24年度での

前倒しを検討されたら」と打診された。

北側用地では、農振除外などに時間がかかると判断。そのため止むを得ずサンウェル駐車場の一部を使うこととした。

町長 そういう交渉がなされていたとは、聞いていなかった。

問 4月の段階で、地権者の協力するという意向がわかっていれば、直ちに対応できたはずだ。

北側用地で当初計画どおり、理想的な建設が可能であったと思うが、どうか。

町長 一日も早く待機者を施設に入所できるようにするためにはこの方法しかなかった。

問 この駐車場の利用状況と対応は。

町長 これまで整備してきたこのエリアの評価は、

健康福祉課長 満車になるのは年13回ある。駐車場については、近辺で土地を取得することを考えている。

「健康と福祉の郷」として、重要なエリアと町民に認知されている。現景観とマッチするよう設計協議する。

行政との過度の関係を規制している。事業の公共性から、町民の福祉向上をめざすパートナーとして、連絡を密にしていこう。

副町長 町発展のため連携していく必要がある。また、法人等から要望があり、それに応えている。

社会福祉法人と町の関係は

町民の福祉向上をめざすパートナー

問 町と社会福祉法人の関係は、どうあるべきなのか。

町長 また各法人が、町の退職職員の再就職の場となっている理由はなにか。

問 他団体への町の債務負担について、基本的考えは。

企画財政課長 種々の事業を推進する上で、町が後年度に負担する経費の限度額や期間を予め明らかにするとともに、事業主体の財源計画を担保し、確実な事業の推進に寄与するものである。



五十里 隆章 議員

入善の祭り

墓ノ木松明祭り

炎が夜空を焦がし、飛び散る火の粉を浴びながら、巨大な松明をかついで練り歩く様はまさに勇壮である。

2つの大松明の前を、小さな松明を掲げた子どもたちが駆けていく。

所々で立ち止まり、笛や太鼓で祭りを盛り上げる。700kgにもなる大松明を持ち上げるのは容易ではない。音頭取りの唄に合わせて、12人の男が息を合わせて担い棒をかつぎあげる。

高さ4・2mの松明は、どうかすると傾きかける。それを4方に伸ばした綱を引っ張ることで、バランスを保っている。

先人たちの洪水とのたたかいを伝える

かつて、黒部川の洪水

で、村近くの堤防が壊されるのが絶えなかった。また、灌漑用水の取水口の堤が流され、水が入らなくなることもよくあった。

村人たちは、下流の住民たちと共に、堤防や取水口を守るために夜を徹して働いた。

そのための明かりとして、村の神明社で松明をつくり、現場に運んだという。こうしたことが松明祭



巨大な松明をかつぐ氏子のみなさん

りの由来とされ、1830年代に年中行事となつたと伝えられている。

黒部川の洪水とたたかい、かつその水の恵みを得るための、先人達の苦勞を伝える祭りといえよう。

洪水からの無事を祈り 水の恵みに感謝

大松明の太さは、根元で1・2m、竹の束で50cmの芯をつくる。その回

りを村人が持ち寄り、寄つたわら束で包み、縄で硬く巻き締め、2日ばかりで仕上げ

る。松明祭りは、旧暦の9月9日、現在の10月9日

に行われたが、町村合併以降は10月13日に、現在は、10月の第2土曜日に行われている。

神明社の前で松明に火を灯し、約2時間かけて



子供たちも楽しく参加

水護神社までの約800mの道のりを練り歩く。

水護神社には、墓ノ木の地を洪水から守つたとされる御影石のご神体が祭られている。

墓ノ木松明祭りは、洪水からの無事を祈るとともに、利水の恩恵に感謝し、松明の行列によって、来年まで灌漑用水を神様にお返しするのである。

この祭りは、富山県の祭り50選にも選ばれている。

編集の窓

新春のお喜びを申し上げます。

昨年末に行われた衆議院議員選挙で、自・公連立政権が再び誕生しました。

東日本大震災からの復旧・復興をはじめ経済対策など多くの課題が山積する中で、新しい政権にはこれらの課題解決に向け、早急な取組みを期待します。

町は今年、合併60周年の節目の年を迎えます。これを機に新たなまちづくりを取組んでほしいものです。本年も、当局とは是非々の立場で議会の役割を果たして参ります。よろしくお願ひします。

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 長田 武志 |
| 委員長 | 中瀬 範幸 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員 | 鬼原 征彦 |
| " | 佐藤 一仁 |
| " | 笹島 春人 |
| " | 野島 浩 |